

S2S meeting 20211222

出席

高橋俊、鵜養、山本、市川、藤岡、永江、原田、根岸、江端、三輪、早川、七村、田中、滝

議論

- 後神
 - WC
 - WCの水槽インストール試験（年末に予定）
 - 水を入れたままインストールするのは安全的に問題ありそう
 - 江端さんと二人
 - フレームの組み立てだけを後神江端の二人で土日にするのは大丈夫？
 - 必要があればKEK職員がたつ
 - 日月で作業予定
 - TOF
 - 足りなかった部材を追加購入した
 - フレーム類はBRに移動してある
 - 年末年始の作業予定
 - 12/23 15:00~ dailyで要相談

- 原田
 - V792は2台年度内に納品予定（後神）

- PAC
 - AFTキャリブレーションの直後にXi production w/ AFT
 - その後標的の入れ替えがあって、(pi, K)反応をする
 - Detector調整のあとそのままAFTキャリブレーション
 - (Pi, K)はK@1.37GeV/cでS-2Sの調整をするので、S-2Sの電流パラメータを変える余地はない
 - Beam throughはS-2Sの設定を変えずに、Beam lineのQQDQQのパラメータを変えながらBeam lineの最適なパラメータを確認する
 - (K-, K+)でもK-は1.8GeV/cだけでなく運動量を下げること、K+の運動量が下がるので、Dの電流を下げることでfocal planeを上流に引っ張ることができて分解能が上がるのではないか
 - 7月のPACで(pi, K)もしくは他の標的での(K-, K+)が提案できないかを検討したい
 - Σ 生成でのS-2Sの校正も考えておくべし
 - Focal planeの確認はbeam throughでとれば良い？
 - 散乱角がないと意味がない
 - 散乱データを取らないと意味がない
 - E70としてはこれまでPACで示したものと変更せず、なるべく早くproduction runに入りたいと主張する（さらなるS-2Sの調査はしない）
 - 2022年9月~2023年6月までは5.2秒のまま変わらないと思っておく

- kWdaysでビームタイムを主張する方が良い
- AFTによる分解能向上demonstrationのために
 - 素過程Xi生成でやるつもり→素過程だと分解能が悪く出る
 - Λハイパー核を作ってそっちでやるべきなのでは？
- ビームタイムリクエスト
 - Commissioning : 3(Detector)+2(AFT)+8(spectrometer)+2(test production) = 15日
 - Production : 2(final check) + 20(production) = 22日 (80kW仮定) →今後はkWdaysで示す

- 山本
 - S-2S TOFをBRに移動した
 - **inquiryは？**
 - **原田が提出する**
 - E70が始まるまで
 - TOF@BR、WC@D4上
 - **Q12Q13FFプレートで作る軸とQ13のずれを測定しておく**
 - **S-2S下流のX位置けがきはシールドにコピーを作るべき (ユーザー仕事)**

- エリア図面
 - SDC3~5の位置関係
 - SDC3, 5は金築修論のSDC3, 4と合わせる
 - SDC4はなるべくSDC5に寄せる
 - **S-2S下流検出器の位置ものせた図面を作る**

- 磁場マップ
 - StsMap2500A.dat
 - 金築さんが昔に作ったやつ
 - BH14fullop3.dat (2018年11月メールを参照)
 - 最新版
 - StsMap2500A.datでは、D1エンドガード (SS400) の材質をDヨーク (純鉄) と同じにしていた。BH曲線が異なるので間違っていることになる。
 - これを修正したもの